

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード



過剰流動性相場は本物か？

先週開催のFOMCで市場想定を上回る「金融緩和策」が打ち出され、市場心理は「総強気」に転換。続いて開催された日銀金融政策決定会合では、マーケットの「好環境」から現状維持を決めたものの、株価指数連動上場投信の資産買入れ基準を明らかにすると「株価指数の影響度が高い銘柄」を中心に買い賛成のムードが広がった。

市場関係者のなかでも、金融緩和を契機とした「過剰流動性相場（バブル相場）」の到来を指摘する向きが増えてきた。当欄も日銀の「ゼロ金利政策」再導入が打ち出された直後の前々回コラムで「過剰流動性相場が再来？」狙える銘柄は？と題していたが、実際には先月後半に下値を探る場面も見られるなど、

マーケットの「材料消化スピード」は思いのほか早い。

もちろん日銀の資産買入れ対象となる株価指数連動投信、指数感応度が高い銘柄は「指数上昇」とともに素直に狙える。ただ、資産買入れにも限度額（ETF4500億円）があり、材料消化となれば、金融緩和に動いた米国市場の状況、為替相場の変動に導かれる「いつもの東京市場」に戻るのではないか？

現状の「上げ賛成ムード」に水を差す気はないが、あまりの「楽観ムード」には「思わぬ落とし穴」が潜んでいると思えてならない。今こそリスクと向きあう「リスク回避投資術」を活用する場面だろう。興味のある方は、ぜひ弊社に直接問い合わせしてほしい。